

7 昔のくらしとまちづくり

さあ！おまつりだ

さおりさんの住む藤守
では、春が近くなると大
井八幡宮で「たあそびさ
ん」といわれるお祭りが
あります。

大井川町の海岸では、
夏のおばんのころになると「トーロン」というお
祭りをします。

ひろしくんの住む吉永
では、秋になると 奴道
中で有名な吉永八幡宮の
お祭りがあります。

大井川町には、いろいろお
祭りがあるんだな。どんな
お祭りが、何のために、
いつごろから伝わっている
のか調べてみたいな。



1年間の米づくりの
ようすが、舞で表さ
れます。



大きなトーロンにた
いまつの火を投げ上
げます。



てんぐのお面をつけ
た人を先頭に、昔な
がらの大名列が行
われます。

これらのお祭りはいつ始まったのかな

さおりさんは、田遊び祭りについてお父さんやおじいさんに聞いてみました。すると、おじいさんの生まれるずっと前からあったそうです。くわしく知りたいと思い、さおりさんは町の図書館へ行って調べることにしました。

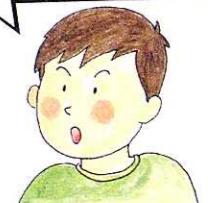


また、きょう土資料館で古い道具を見せてもらいました。



※図書館の横にあります。正しくは、「大井川町郷土民俗資料保管庫」とよばれています。

ずっと昔から伝わって
いるんだね。昔の大井
川町ってどんなまちだ
ったのかな。



図書館やインターネ
ットを利用して調べ
てみましょう。



町のきょう土資料館
を見学してみましょう。

いろいろな農機具があ
るのね。昔の大井川町
のくらしをもっと知り
たくなってきたわ。

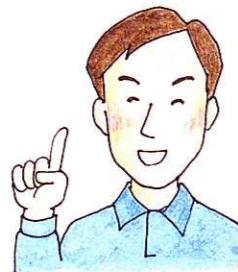


1

大井川町の人たちの昔のくらし

さおりさんたちは、お祭りや、せんたく・すいじ・米づくりなどの生活や仕事などのうつりかわりについて、グループに分かれて調べることにしました。

インタビューしてみよう



お父さんお母さんの小さなころ

テレビ、電気せんたく機やそじ機、れいぞうこも使っていましたよ。でも、クーラーのあるところは少なかったなあ。今のように、けいたい電話やパソコン、コンビニなんかはなかったなあ。

おじいさんやおばあさんの小さなころ

せんたくは、せんたく板を使い、ごしごし手であらったよ。冬はつめなくて大変だったよ。そうじはほうきを使ってだったので時間がかったもんだね。ごはんのしたくはもっとたいへんで、朝早く起きてかまどでまきやわらをもしてたいただんだよ。

れいぞうこは氷を入れて冷やすものしかなかったので、おさしみやお肉などは食べることがむずかしかったね。

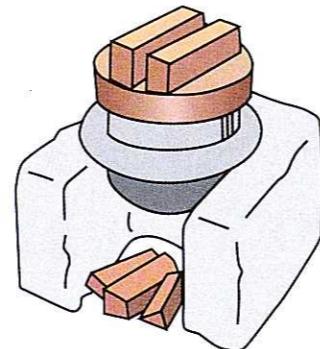
ラジオや電話もない家が多かったよ。男の子は、べつたんやカッチン玉であそんで、女の子はおじゃみもやったよ。



古い道具で使い方のわからないものはお年寄りに聞いてみるといいわね。



話を聞いて、いろいろべんりな道具ができて、生活や仕事のしかたも変わってきたことがわかりました。そこで、みんなで聞いてきたことをカードや表にまとめてみました。



くらしはどうかわったのでしょうか

おじいさん・おばあさんの生まれ育ったころ(60~80年前)

大きな戦争があった

ひいおじいさん・ひいおばあさんの生まれ育ったころ(100年くらい前)

- ・かまどでご飯をいたた。
- ・井戸からポンプで水をくんだ。
- ・竹馬やぺったん、かんけりやおじゃみ(お手玉)をして遊んだ。
- ・紙芝居やアイスキャンディ一売りが来た。
- ・ラジオがあった。
- ・ちくおんきがあった。
- ・お祭りで、しばいを見に人があつまつた。
- ・赤ちゃんは家で生んだ。
- ・自転車はあまり多くなかった。
- ・田植えやいねかりの時は、学校が休みになった。
- ・汽車が走っていた。
- ・着物をきて、ぞうりをはいて学校へ通った。

お父さん・お母さんの生まれ育ったころ(30~40年前)

- ・電気がまができた。
- ・ガスこんろができた。
- ・自動車が増えてきた。
- ・信号機が増えしてきた。
- ・電気せんたくきができた。
- ・電気そうじきができた。
- ・カラーテレビが出てきた。
- ・ステレオやテープデッキができた。
- ・タイマーが出てきた。
- ・新幹線に乗る人や海外旅行をする人は、まだ少なかった。
- ・土曜日は、休みではなかった。



おじいさんの話

わたしたちが小さいころは、おそろしい戦争があつてね、食べるものも着るものもなくてずいぶんこもったもんだよ。アメリカのB29が爆弾を落としたりして、たくさんの町が焼け、たくさん的人が死んだり、きずついたりしたんだよ。大井川町でも中島の盤石寺には、東京への空

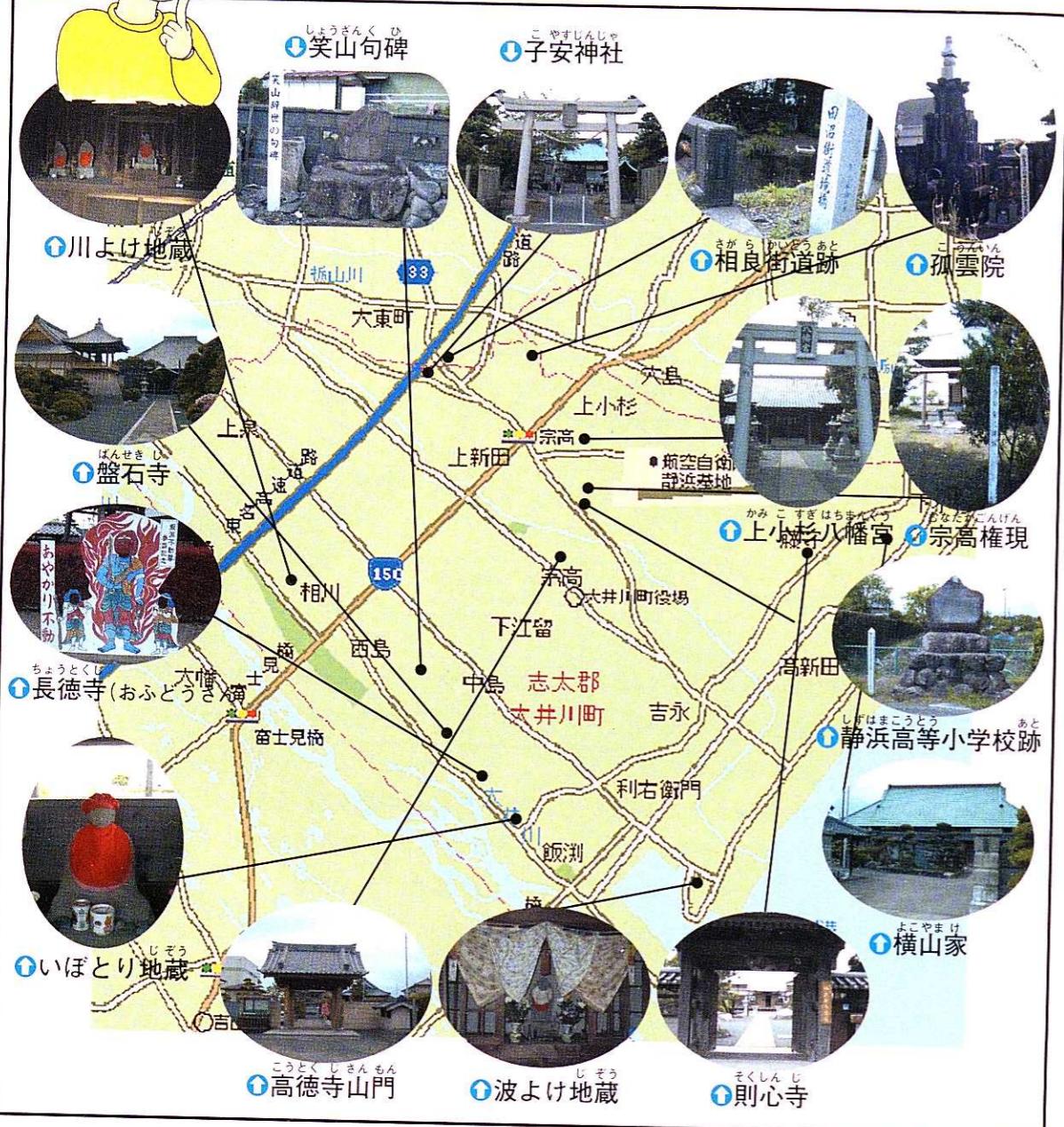
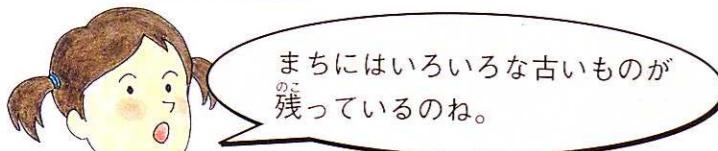
グランという飛行機がうつたたまがとんできたり、中島の盤石寺には、東京への空しゅうをさけるために、「そかい」してきた子供たちが、60人ほどもいて、いっしょにねとまりしながら勉強したりしていたんだよ。

そうそう、今みたいに電子レンジもないし、カップめんや冷凍食ひんもなくて、水を買って飲むなんて、とんでもなかつたよ。そういうえば、腕時計も宝物のようだったなあ。



まちに伝わる 昔コーナー

さおりさんは、お祭りがいつからはじま
ったのかくわしく調べることにしました。



いき 地域に残る昔をさがそう

ほうさく 豊作をねがう人々

大井川町は、上泉という地名が示すように豊かな水を利用した米づくりが昔からさかんだったそうです。そういえば、上新田や高新田など新田の名前のある地名が多いこともそのためかなとわかつてきました。



た あそ
大井神社の田遊び祭りというのは、こう
水がおこらないで、ぶじに米ができますよ
うにという願いから始まって、米づくりの
文化を若い人たちに伝えながら、約1000年
以上も前からずっと続いているんですって。



ひやかまち
百ヶ間地は、江戸時代に
かわもりそうだゆう
河守惣太夫という人が米づ
くりをしやすいように、田
を102の四角形にまとめ
たあとだそうよ。

昔の人はなんとか米をたくさんとろうと
くふうしたことがわかりました。昭和30
年代には、田中川の整備や耕地整理（土地
改良工事）で、昔からの小さくていろいろ
な形をした田は、今のような大きい四角



か
形の田にうまれ変わり、きかいが農業に使
われるようになってきました。

きれいな四角形に生まれかわった田

たくさんの人々のくふう
や努力があって、農業
がさかんになってきた
のね。

78ページの
写真とくらべ
てみると、ち
がいがわかる
わね。



ほかにも大井川の近くには、寺島・堤外・川原・高畠・中川原・清水田・仲田・四反田・前田・寄合田・百石・午新田・浜新田・下ノ田・下田中・上川原・上田中・上島など川や田んぼにちなんだ地名がいっぱいあるんだ。中には開発した人の名前をつけた所もあるね。何と読むのか、どういう意味なのか調べたらおもしろそうだぞ。

大井川とのたたかい

そういうえば、中島・西島という地名はどうしてついたのかしら。大井川の東側なのに…。



たかしくんは、高新田という地名を調べて
いて、おどろきました。ここは、土地が低い
ために「高い田になつてほしい」というねが
いをこめて名づけられたというのです。

盤石寺が、吉田や掛川などの、
榛原から西の人たちにかかわりが深いこともふしきだね。



昔の大井川の流れ



1604年の大こう水で、大井川町はすべてあれ地となつてしまつたために、それ以前のものがあまり残っていないんだって。

大井川は、しばしば大水によって流れを変え、一生けんめい耕しても、こう水でこわされるといったことをくり返していたんだよ。そのため、大井川町は川の流れの位置によって、榛原になったり志太になつたりしていたんだ。そのころ、川の中の高くて島のようになったところが中島、西側の島が西島と呼ばれていたというわけだ。
陸上競技場の近くの木々が茂っているところには、昔は村があったのだがこう水で流されてしまったんだ。中島で行われるトーロン祭りは、こう水のために死んだ人たちのたましいをしづめるために始めたとつたえられているんだ。

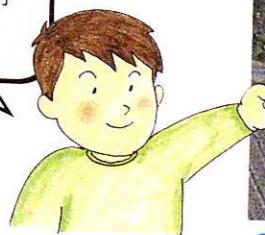
江戸時代	1604年 大こう水で大井川町のほぼすべてが流されてしまった。	
	1618年	西島の堤防が切れて家や田畠が流され、村を出していく人もいた。
	1639年	西島の堤防が切れ、田畠が大被害を受けた。村人が出て行き、70けんから12~13けんに家がへつた。
	1687年	吉永・飯淵などで大こう水によって被害が出た。
	1715年	相川・上泉の堤防が切れて被害が出た。代表が江戸へ行って堤防工事をたのんだ。
	1717年	中島・飯淵の堤防が切れた。たくさん的人が死んだ。
	1813年	中島・飯淵の堤防が切れ、また、たくさん的人が死んだ。
	1828年	上泉の堤防が切れ、田畠や家が流され人や牛もおぼれ死んだ。
	1837年	飯淵の堤防が切れ、住民は草木の根を食べてうえをしのいだ。
	1874年	西島の堤防が切れ、多くの田畠が流され、米がまったくとれなかった。
	1881年	こう水で橋が流され、橋を守ろうとした人が流されて死んだ。
	1900年	上泉の堤防が切れた。相川・下江留・西島・宗高・藤守にわたり田畠が流された。
	1902年	大こう水によって川に架かる橋が流された。

こう水からまちを守るくふう

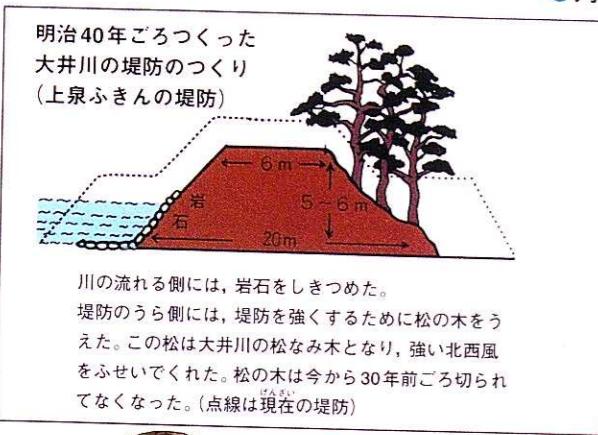
おそろしいこう水から、まちを守るためにくふうについて、調べてみましょう。

たかしくんは、堤防の近くにあるお地蔵様や、家をこう水から守るために作られた舟形やしきについて調べてみました。

やしきが、船のようにつくられていて、船の先を大井川の川上に向けているので、流れから家を守ることができるんだ。



①舟形やしき



堤防図

じょうぶな堤防をみんなで一生けんめい作ったのね。



大井川から村を守るためにいろいろくふうしたり、神社を建ててお祭りをしたり、お寺を建てて豊かな実りを祈ったりしてきたんだね。お祭りを調べると、昔の人の願いがわかるんだ。

有名なお祭り

★子安神社 安産祈願

★藤守大井八幡宮 田遊び

★上小杉八幡宮 流鏑馬・神相撲

★吉永八幡宮 3年に一度の大祭り

ゆたかなまちをめざして

たび重なるこう水による被害に苦しめられていた昔の大井川町の人たちの生活は、たいへん苦しいものでした。なかには、大井川町を「陸の孤島」とよぶ人までいました。

そんな大井川町を変えようとして立ち上がった人たちがいました。その中の一人、池谷政一郎を調べて、マンガにまとめました。

昔、大井川町に住んでいた人たちのおかげで私たちも学校へかよえるようになったのね。



①マンガにまとめた岩ヶ谷さん

大井川町のまちづくりに力をつくした人について調べてみましょう。



(1)



(2)

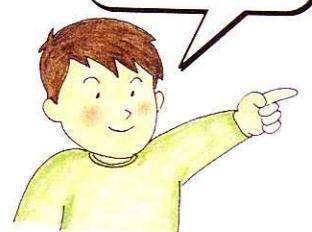


(3)



(4)

まちづくりのためにいろいろなことをしているんだね。



今では、多くの人々の努力でりっぱな堤防とダムができたので、大水の心配はほとんどなくなりました。そして、全国でもめずらしい町営の港が完成し、国道が通り、大きな会社や工場も建てられ、新しい校舎が建ち、町の施設もたくさんつくられて、

はってん
大井川町は大きく発展してきたのです。

みなさんも住んでいる地いきの発展につくした人を調べて、マンガやポスター・新聞などにまとめてみましょう。



①宗高郵便局（大正初期）